

令和 7 年度第 1 回西淀川区区政会議

1 開催日時：令和 7 年 6 月 26 日（木）午後 6 時 31 分～午後 8 時 27 分

2 開催場所：西淀川区役所 5 階 会議室

3 出席者の氏名：

（委員：敬称略、50音順）

麻井、今前田、浦中、大垣、大西、岡崎、倉方、竹内、多田、田中、西垣、藤江、
藤浪、森田、矢口、吉見

（事務局：西淀川区役所）

松田区長、楯川副区長、奥本総務課長、横内区政企画課長、澤田地域支援課長、
井上防災安全課長、奥野窓口サービス課長、山村保健福祉課長代理、
山城生活支援担当課長、椿野こども福祉担当課長、足立保健主幹

（市会議員）

佐々木哲夫市会議員 清水こう市会議員 山田かな市会議員

4 議題

（1）令和 6 年度西淀川区運営方針の自己評価について

（2）グループ討議 西淀川区のめざす多文化共生社会について

（3）その他

5 議事内容

○横内課長

それでは定刻となりましたので、ただいまより、令和 7 年度第 1 回区政会議を開催
します。

本日の会議は、現時点で 14 名の参加でございます。定員 27 名の過半数ということで、
会議が成立していることを確認いたします。

私、今回の司会を務めさせていただきます、区政企画課長の横内と申します。本日

はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議長から開会等始めていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○大垣議長

こんばんはには、まだちょっと早いですかね。こんにちでは行かせていただきますけど。令和7年度第1回区政会議を始めさせていただきますけども、リラックスしていろんなお話をしていってほしいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事進行の説明を、事務局であります区役所から、よろしくお願いいたします。

○横内課長

ありがとうございます。

本日の議題でございますが、1つは「令和6年度西淀川区運営方針の自己評価」を、私から最初にご説明をさせていただきたいと思っております。その後、資料をお送りしたと思いますが、グループ討議としまして「西淀川区のめざす多文化共生社会について」と「その他」を予定しております。

まず、お手元の資料の確認ということで、資料の説明をさせていただきます。1枚目が区政会議の「次第」、2枚目が「配席表」となっております。今回は4ブロックで、4名、3名の人数になっておりますが、各課長様におかれましても入っていただくような形で、一緒に課題出し等のお話をしていただければと思っております。それから「委員名簿」に続きまして、資料1としまして「令和6年度西淀川区運営方針」、資料2「グループ討議の進行の流れ」がございます。それから資料3「多文化共生に関するワーク」、この1枚物のシートが今回のメインになってまいります、イメージ合わせやギャップの抽出、そしてアイデア出しまで持っていけたらと思っております。それから、次のページ以降は参考資料になりますが、参考資料1「大阪市多文化共生指針(概要)」になっております。参考資料2としまして、これを受けて西淀川

区で独自に取り組んでいるいろいろな多文化共生施策というのをこちらに用意しております。資料3「人口推移について」ということで、大阪市の全体の人口、西淀川区の外国の住民の方の人口などを表している表となっております。それから参考資料4「大阪市外国人住民国籍別区別人員数」です。こちらは昨年12月末ということで、国勢調査もまた行われますので、恐らくはもっと人数が増えている結果になってくるだろうと思っておりますが、西淀川区は約95,000人のうち6,264名の外国人の方がおられます。比率でいうと大阪市の平均が6.6%としましたら、大体似ているぐらいの数になっているという状況になっております。区によりましたら浪速区、西成区など15%になっている区も近年は見受けられているという状況になっております。続きまして資料5、大阪市民政局で出しております「多文化お助けガイド『何でも聞いてや!』」という冊子でして、外国の方が困りそうな、ごみの出し方や病気や事故、緊急時に困ることを書いているんですけど、「地域の活動に参加していることによってこれらの緊急時にも対応できる」という地域活動への参加の重要性などもうまく書いて、良い資料になっているなと思しましたので、今回ご用意させていただいております。それから参考資料6ですが、これは大和田のマスジットの写真でございます。こちらは、西淀川区独自でいろいろ取り組んでいるということをあえて書かせていただいている資料になっておりますので、またご参考に見ていただければと思っております。

資料については以上になっておりますが、何か抜けているものがございましたら言っていただければと思っております。

それでは、会議中、写真を今回も撮らせていただきます。同時にY o u T u b eでライブ配信もさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事に先立ちまして、区長のご挨拶をよろしくお願いいたします。

○松田区長

皆様こんばんは。ご紹介いただきました区長の松田でございます。

お忙しい中、お暑い中、お疲れのところ、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。

今日のグループ討議に関しましては「西淀川区のめざす多文化共生社会について」ということでございます。私、前職で10年ほどたちますけども、主に中国人の留学生の方に就労の機会をご提供する、勉強とお仕事と両立していただく。その後、希望される方には日本で就職をすると、そういうことをご支援するような仕事をずっとしてございました。思い起こせば、当時と今と全く状況が変わっていて、外国人と一言ではくくれないような多様な状況になっていて、まず非常にいろいろな国籍の方々が日本においでになられて、以前は働きに来られる、勉強に来られる、お一人で来られる方が多かったんですけども、西淀川区においても家族で来られて、お子様が小学校・中学校に来られて、既に義務教育を終えて社会へ羽ばたいていこうかと、そういうサイクルができつつあると。そういう状況をいい方向に捉えて、成長の糧と捉えて、どうやって持続可能なスキルとしていくのかという部分、大阪市においても西淀川区においても、そういう互いの文化の違いを尊重し合う土台づくりという趣旨で取組をしているところではあるものの、急速の状況の変化によって、必ずしも十分とは言えない状況かもしれません。

今日は皆様、地域でも直面している課題等もあろうかと思いますので、忌憚のないご意見を交わしていただきまして、いろんなご意見、今後の私どもの方向性に役立てさせていただけたらと思いますので、ご議論のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○大垣議長

ありがとうございました。

それでは続いて、議題に進んでいきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

○横内課長

それでは、事務局より説明させていただきます。

資料1「令和6年度西淀川区運営方針」、こちらをご覧くださいようよろしく
お願いします。

令和6年度は基本的な考え方としまして、住民同士や事業者のつながり、地域が主体的に活動できるよう支援、高齢化・人口減少が見込まれる中で、地域活動の活性化のため、区民の皆様のつながりを創出し、連携し、持続可能なSDGsの達成に向けた取組を進めていくというようなことをめざして頑張ってまいりました。

「重点的に取り組んだ経営課題」として5つございますが、1つ目としましては、今年区制100周年を迎えますので、「官民共創による選択されるまちとしての魅力向上」というのに取り組んでやってまいりました。

アウトカム指標としまして、「まちの魅力向上をめざして以前より区役所の取組が進んでいる」と感じる区民アンケート回答者の割合について、65%以上をめざしてやってきたという経過がございます。また、万博の開催期間でございますので、「にしよどがわ万博」という、区民の皆様1万人以上の協力をいただこうという目的や、「がん検診を受診しつづけている」という方を37%以上にしようと、または「西淀川区公式LINE」をずっと頑張っておりますが、令和7年度早期に1万人をめざそうということで、目標として8,500人をめざして頑張ってまいりました。結果でございますが、「まちの魅力向上をめざして以前より区役所の取組が進んでいる」と感じる区民アンケート回答者の割合が46.5%というところで、65%には少し届かなかったという状況でございます。また、「にしよどがわ万博」については17,000人の方がご協力いただき、「がん検診」のアンケートにつきましては38.6%、この2つにつきましては目標以上の成果を得られたかなと思っております。「区公式LINE友だち登録者数」ですが、今月に入りましてやっと8,500人を超えましたが、年度末の状況は8,328人という未達成の状況がございました。

2つ目の目標でございます。「こどもたちがいきいきと育つ環境整備」ということ

で、孤独や孤立を防ぎ、こどもと保護者に寄り添う支援をやっていこうということで、例えば戦略としまして、小・中学校に週1回のスクールカウンセラーを配置したり、「こそだてコンシェルジュ」ということで保育の相談を受けられるようにしたり、そうしたことを取り組んできた経過がございます。

アウトカム指標でございますが、「教育環境や子育て環境が以前より良い」と感じる区民アンケート回答者、50%をめざして頑張ってきた次第でございます。結果としまして「教育環境や子育て環境が以前より良い」と感じる区民アンケート回答者の割合は48.8%と、前年度の54.2%に比べますと少し足りないところがあったという状況になっております。

3つ目の目標でございます。「地域コミュニティの機能向上」ということで、価値観の多様化やプライバシー意識の高まり、地域への愛着・帰属意識の低下などにより人と人とのつながりが希薄化している中で、災害が起きたときの子どもや高齢者の見守り、地域の防災・防犯対策、地域を基盤とした人と人とのつながりの大切さを改めて認識しているという課題認識の下、地域コミュニティの機能の構築及び強化というところに取り組んできた次第でございます。

目標としまして、町会加入率について令和8年度末に70%以上、「町会加入促進の取組が促進されていると感じる連合町会長の割合」が80%以上、また「町会加入促進の効果を感じる連合町会長の人数」が4名以上というような目標を掲げてやってまいりました。残念ながら町会加入率につきましては、令和5年度から大阪市全体で取り組んで、西淀川区では令和6年度から目標設定しているのですが、令和6・7年度と測定が行われないこともあり、最終年度の令和8年度に改めて測定をさせていただこうと思っております。一方で、連合町会長様の「町会加入促進の取組が促進されていると感じる連合町会長の割合」が57.1%、また「町会加入促進の効果を感じる連合町会長の人数」は5名ということで、それぞれ少し至らなかったところと、効果は感じてくると言っていた方が5名いらっしゃったという結果になっており

ます。

それから次のページ、目標の4番目「防災力の強化」でございます。単独での避難が困難な方に対する個別避難計画、避難所運営においての女性視点、多様性の配慮という点を課題認識としまして、避難行動要支援者の個別避難計画を策定したり、小・中学校で防災教育プログラムをつくったり、女性視点の多様性配慮の視点を反映した備蓄など、そうしたことを戦略として頑張ってやってまいりました。

アウトカム指標としまして、「防災教育プログラムを全校で実施する」、「多様なメンバーの参加による多様な視点に配慮した防災活動が行われていると感じている地域の割合」32%以上を目標にやってきましたが、結果としまして、「個別避難計画」は52.4%、「防災教育プログラムの実施」は6校ということで、こちらのほうは当初目標としていた数を達成しております。一方で、「地域防災リーダーの女性の活躍の割合」は25%というところで、こちらについては目標に至らなかったという結果になっております。

最後ですが、「誰もがいきいきと暮らせる温かいまちづくり」としまして、住民の方と地域福祉計画をつくって、それを基に支援がスムーズに行われる枠組みを速やかに整えていくという戦略を掲げまして、区役所の中でも気づく力の向上や、地域福祉計画の中の「ちょこっと♡助っ人ボランティア」や「ウェルカムバンク」「となりのお節介さん」で速やかな支援ができる環境を整えていこう、ということで取り組んできた経過がございます。「困ったときに地域で相談できる相手がいる」と感じる区民アンケート回答者の割合が75%以上、「ちょこっと♡助っ人ボランティア制度」の登録者数80名以上、「となりのお節介さん」の認定者数40名以上をめざして進んでまいりましたが、結果としまして、「困ったときに地域で相談できる相手がいる」と感じる区民アンケート回答者の割合が70.7%、「ちょこっと♡助っ人ボランティア制度」の登録者数が57名、「となりのお節介さん」の認定者数が25名といったところで、少し届かなかったという状況になっております。

総括でございますが、自己評価といたしまして、「防災教育プログラム」や「防災力の強化」は企業様・団体様を通じた啓発や学校園との協力で一定すごく進んだかなと認識しておりますが、一方で、「まちの魅力向上」に向けて効果的な情報発信ができなかったということがありましたし、町会加入促進についても、もう少し連携や情報共有を図って進めていく必要があるのではないか。「多様性の視点を考慮した防災活動」ということで、そうした人材の育成が必要ではないかと思っております。それから、「ちょこっと♡助っ人ボランティア制度」「となりのお節介さん」につきましては、単に制度の認知を上げるだけではなくて、もう一工夫しないと、もう少し広がらないのではないかなということを考えております。

今後の方針としまして、「まちの魅力の向上」につきましては、区民ニーズを広く把握した上で、SNSやホームページ、情報の多元化を図りまして、「西淀川区の将来ビジョン」、「令和7年度西淀川区運営方針」の目標を達成していきたいと思っております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○大垣議長

ただいまの説明についてのご意見、ご質問がありましたら挙手をお願いいたします。その際に、お名前もおっしゃってください。どうぞよろしくお願いいたします。

ないようですので、それでは事務局から、次の議題の説明をよろしくお願いいたします。

○横内課長

ありがとうございました。

それでは、今回の議題であります。資料2「令和7年度第1回西淀川区区政会議グループ討議について」をご覧ください。

今回のテーマでございますが、「西淀川区のめざす多文化共生社会」について、資料3「多文化共生に関するワーク」の①・②・③の順に皆さんで話し合いをしていた

だきたいと思っております。まずは、各グループ内でファシリテーター、司会を決めていただいて、発表、意見交換という流れで進めていきたいと思っております。討議の時間でございますが、時間配分としまして、ご自身が思われる「多文化が共生しているまち」のイメージや、西淀川区における現状の問題点について、各自で検討してワークシートと付箋で記載いただきたいと思います。これは5分ぐらいでやっていただければと思っております。付箋を模造紙に貼って、自分の考えを順番に発表していただく。これは1人2分程度でやっていただく中で、あとは意見交換をしてグループとしての意見を取りまとめていただく。キーワードを書きながら、25分から30分ぐらいでやっていただく中で、最後にまた各グループから発表していただいて皆さんで意見交換と、大体1時間ぐらいの配分で考えております。それから、皆様、外国の方が近くにいらっしゃる方や職場で多いとかいろいろ状況が違うと思いますので、多角的な視点で検討するために、自由な発想でやっていただければと思っております。他者の意見に対する批判や否定などはお控えいただきまして、皆様のご意見をたくさんいただきたいので、発言は端的にやっていただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

それから、西淀川区でどんなことをやっているのか少しだけ説明したいので、参考資料6をご覧ください。1枚めくっていただきまして、「きらきら☆フェスティバル」となります。これはもともと中南米の方々が出来島のエリア、港南のエリアには昔からたくさんいらっしゃるということもあるんですけれども、昨年11月3日に「きらきら☆フェスティバル」を開催いただきました。ペルー共和国を対象として「国際交流プログラム事業」に今、登録しております。万博関係者の方と区内のペルーの方の交流を目的として、この11月3日には1,500人ぐらい来ていただきましてイベントをした経過がございます。今年は大阪・関西万博のナショナルデーが8月9日にあり、東京都渋谷区とペルーの大統領も来られるんですけれども、我々西淀川区も参加して、一緒に出来島の方のビデオを上映するなど、そうしたことをやっていこうと思ってお

ります。

2枚目、「区民駅伝大会」でございます。これは毎年させていただいているのですが、昨年度は、日本語学校の方と「多文化共生チーム」ということで計2チームが大会に参加させていただきまして、こういったところから積極的に身近な関係性をつくるといった取組をやっているところでございます。

それから3つ目、西淀川区広報紙「きらり☆にしよど」でございます。「区長だより」というのを毎月載せさせていただいているんですけれども、気づかれたと思いますが、日本語に加えて英語の表記をするような形でメッセージを発信したり、今度は7月に区民剣道体験会があり、外国の方も参加していただけたので、そうしたことの情報発信をしたりいうのを積極的に進めております。一方で、防災の研修も、最近ではムスリムのモスクの方にもさせていただいて、実施報告を英語で表記するなど、だんだんと英語が非常に見える状況になっていると思いますが、そうした取組もさせていただいております。区としては、独自でそうしたこともやっておりますが、今後、もっといろんなことで多文化を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまよりグループ討議をやっていききたいと思っております。今回、区役所の方々も積極的に席についていただきながら、気さくに行政としての課題など意見交換をして、課題出しのお手伝いをいただければと思っております。

まずは、資料3「多文化共生に関するワーク」の①に記入していただいて、記入ができましたら②以降を順次検討・記入していただく中で、各自グループワークに入っていきたいと思っております。それでは、今から5分ぐらいでやっていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【ワーク記入】

○横内課長

皆さん、書き終えていただいている方や今考えていただいている方もいらっしゃる

ようでございますが、これからグループ内で話し合っていたきたいので、ファシリテーターの方を1人決めていただいて、ファシリテーターの進行に従って、付箋に記入をして模造紙に貼りながら、情報共有して意見交換をしながら案をまとめていきたいと思っております。まず、すみませんが、中でファシリテーター1人を決めていただけますよう、よろしくお願いいたします。

【ファシリテーター選出】

○横内課長

ありがとうございます。それでは、2、3分程度でグループごとにご意見をまとめていただければと思っております。多文化が共生しているまちのイメージと、その実現に向けた現状の問題点をグループ発表できる感じで、どうぞよろしくお願いいたします。

【グループワーク】

○横内課長

議論も白熱しておりますが、お時間となりましたので、取りまとめた意見につきまして、各テーブル3分程度で代表の方から発表していただければと思っております。前のほうで、いつもさせていただいている手法でございますが、紙を貼っていただきながら代表の方に発表いただければというふうに思っております。

まず、トップバッターでやっていただける方、挙手をよろしくお願いいたします。

それでは、多田さん、よろしくお願いいたします。

【各グループ発表】

○多田委員

多田です。うちの班ではまず「どういうのが理想の共生なのかな」という話だったんですけど、まさに今やっている大阪・関西万博、あの会場そのままですよという話をしていました。多様でありながら一つということですね。いろんな国の人が当然いるし、いろんな文化もあるし、それぞれ絶対譲れないものがあると思うけど、リングみたいになんか一本がお互いを通すとしたら「西淀川区民であるというアイデンティ

ティ」かなというのは、うちの班で話し合っていました。どんな文化であっても「同じ西淀川に住んでる人だからね」という西淀川愛みたいなもので、一本何かリングみたいなものを通せないだろうかということのを班で話して、じゃあその理想社会を実現していくには、今どういう障壁があるのかしらねと。これは当たり前ですけど言語の壁ですよというのがあるって、「全くしゃべられない人と日本人をつないでくれる人が必要ですよ」というときに出てきたのが、「意外と子どものほうが日本語しゃべれますよ」ということを何となくみんなで言っていたので、子は鎧じゃないですけども、子どもを通してマッチングしていく、イメージを変えていくことが必要なのかなと。何もコミュニケーションが取れないから「何か怖いね」とか、ちょっと何か言ったら、「うわあ、何言ってるんだろう、あの人」みたいなイメージが、偏見がついてくるので、若い世代を通してつながって、そういうイメージを払拭していくことも大事なので、学校も含めて、教育現場も含めた情報共有が大事になってきますよねという話をして、じゃあそれを実現していくために、どういうことをしていっていいのかという話なんですけれども、今この立派な冊子をお配りいただけてますけれども、西淀川独自のルールというのものもあるよねと。例えば大野川緑陰道路だと、青色の道は自転車道、オレンジ色の道は歩道みたいな感じですけど、それは当然よく分からないですよ。歩行者専用道路を自転車で走っている外国人をよく見ます、最近。そういうサイン表示とか、何かこの冊子に附属で小さい冊子で、西淀川版みたいな、「西淀川だとかこういうのを守ってね」みたいなのは要るよね、というようなところ。やさしい日本語を使ってでっかいイベントをやりましょうよと。多文化共生の大きなイベント、今もやってますけれども大野川緑陰道路を使ったら、みんな参加しやすいんじゃないのみたいな。大野川緑陰道路を1本使って、多文化共生のイベントをやったらいんじゃないかなみたいな。短期的な目標と長期的な目標で、若い世代は将来大人に成長していったって働くと思いますけれども、そういう子たちから共生してつながっていくということで、さっきも言ったとおり、学校との連携や各日本語学校との連携とい

うところも必要ですよねというような、短期的な目線と長期的な目線、この2つの方法をもって、やっと西淀川区民という共通認識を持った多文化共生が実現するんじゃないかな、というのがうちの班のまとめで、逆に言うと、今この区政会議委員の中に外国人の方はいませんよね。そういうところからかなという気がします。多分情報が全然伝わってないと思うんですけども、そういう意見もうちでは出ていました。ぶっちゃけて、ここで聞いてみたらどうですかという話です。どこまで何が困っているか聞ける機会があったらいいんじゃないか、というのがうちの班のまとめでした。以上です。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございます。

それでは、はい。

○藤江委員

うちのグループですけども、1つ目のほうは、町会の行事などで自然と触れ合っていて参加しているまちとか、文化の違いを認識してとかいろいろあるんですけど、あまり「この人は外国の人だから」とか言わずに、普通にお互いが暮らせる状態が一番理想だな、ということが一つ出てまとまりました。

2つ目ですが、先ほどと同じで言葉の壁、知り合う機会がないとか賃貸だと挨拶もしないとか、文化・食べ物とか男性と女性の役割の違いとか、子育ての文化も違うと。例えば味にしても、日本人はご飯を食べる。でも、もしかしたら違う国の人は豆を食べる、私は豆が嫌いみたいなときに困るよねと。そういう何かささやかなことでもいろいろあるけども、じゃあどうしていくかということで、「一緒に楽しむ」と書いたんですけど、町会に入ってもらって地域行事と一緒にやる、そんなのがいいんじゃないかとか、お互いに挨拶をすとか交流をする、味は嫌いなものもあるけど一緒にご飯を食べたらいいんじゃないかといろいろ出ましたが、一番これとなったのが「綱引

きをする」。これは、地域別運動会で綱引きをする。なぜかという、結構皆さん体格がいい方が外国の人にも多い、若い方も多い。この人たちに入ってもらって一緒にやることで勝てる。勝てなくても負けた悔しさを一緒にできる。応援も一緒にしてもらおう。大和田では既に、これで勝つ気十分ということで、もう運命共同体としてやっておられるそうなので、こういうことを一緒に楽しむことが一番の特効薬ではないかということになりました。そんな感じです。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございます。

それでは、次のグループ、よろしくお願いします。

○大西委員

こちらの班ではいろいろと話をして、最近の日本に来られた外国人の方だとか西淀川区内でどんなことが起こってるかというイメージの出し合いから始まったんですけども、昔から来ている方がだんだん増えてきて、二世・三世が増えてきた。日本の文化になじんでいる方も増えてきたよね、マナーがよくなってる雰囲気もちよっとあるよねという。日本になじんでこられた方が多いので、昔ほどの「これはちょっとな」というところは少し減ってきたのかな。とはいえ、日本はもともと評判がいいとはいえ、その評判のよさが裏目に出るようなきっちりとした感じ、ルールの厳しさ、言葉の難しさといういろんな課題があるので、そこを含めた上で外国の方にどこまで寄り添っていいのか、住んでもらいやすいまちにしていこうとということ、どこまでこちらから歩み寄るのか、もしくは向こうにも歩み寄っていただくのかというところの線引きがとても難しいなと思って、その話がいろいろ出ています。やっぱり合わせ過ぎると日本のよさがなくなるというところがあるので合わせ過ぎになるわけにもいかないし、とはいえ昔ながらの古き良きというところをあまり前面に出してしまうと、窮屈な感じになってしまうので住みづらいところという印象がついてしま

うんじゃないかな、という話になりました。

ちょっとずつお互いの距離感を縮めていくためにイベントの交流とか、盆踊りの夜店に参加していただくというところがきっかけになるのもいいんじゃないかなという話でして、入り口のすごくオープンな感じの夜店がとても人気が高いとか、結構来られる方が多いですねというお話がありました。逆に、その施設内でのイベントは、参加される方があんまりいらっしやらないイメージだなというところで、イベント開催するにしても場所や雰囲気はとても大事なんだなというお話になっています。

課題を解決に持っていくまでにはならなかったんですけども、とはいえ就労先として日本に来て働いておられる方もとても増えてきているので、この辺りの交流をうまく生かして、「お互いが住みやすいまち」というところに少しずつ私たちがお手伝いをして変えていけるといいな、というお話をしていました。以上です。

(拍手)

○横内課長

ありがとうございました。

それでは、最後の発表です。お願いいたします。

○吉見委員

こちらの班です。まず初めに「多文化が共生しているまちはどんなまちか」というところで、まず見た目的なところでいいますと、まず皆さん、まちを歩いている人たちの服が民族衣装じゃないですけども多彩な服を着ているとか、あと西淀川区はインド料理とかネパール料理とかいろんな店がありますが、そうしたお店が多いまちで、人としてはやっぱり子ども同士、先ほどもお話ありましたけども、子ども同士がそれぞれの国の遊びをしたり、大人だとすると国自慢、「自分の国はこんなんやで」というようなお話をしていたりするまちが「多文化共生しているようなまち」ではないか、という話が出ました。

あとイベントでいうと、「きらきら☆フェスティバル」もそうですけども、日本の

盆踊りやだんじりだけでなく、海外の祭りも、毎月国ごとのお祭りがあればイベントとしてはすごい楽しいんじゃないかな、と話はしてました。

そして精神的な、マインド的なところでいいますと、これは外国人だからというわけじゃないんですけども、やっぱり基本的には「人に対しての興味を持つ」というところが最低限ベースにあって、それで初めて仲よくなっていけるのかな、というところで話をしておりました。

それで問題・課題でいいますと、やはり言葉や文字というのはあるんですけども、具体的なところで「ごみ問題が結構今大きい」という話が出てまして、ごみの出す場所をなかなか守ってもらえないとか、仕分け・分別ができないというところで、地域や町会でも課題に持っている方が多いみたいなので、そうしたところはそれこそイベントで大野川緑陰道路クリーン大作戦みたいなのところに外国人の方と一緒に参加することで、「ごみってこれだけ落ちているんですよ」とか「こういうところは仕分けするんですよ」ということを手取り足取りじゃないですけども一緒にすることで、伝えていけるんじゃないかなという話が出ました。

あと、外国の方でお仕事のために今こちらに来られている方は、今は生産世代で働いてらっしゃる方もいずれは高齢者になっていきますので、介護という問題ももしかしたら出てくるんじゃないかなというところで、そうした方たちは介護保険を途中から払っているのか、もしかしたら未納の方もいらっしゃるかも分かりません。実際に今それで介護サービスを受けられない方も出てきているみたいなので、そうした方に対してこれからどのように支援ができるのか。国の制度として介護保険サービスが使えないのであれば、それこそ地域など何かしらのコミュニティで支えないといけないという問題が出てくるんじゃないかな、という話が出ました。

そして解決策ですけども、よくイベントで、先ほどの大野川緑陰道路クリーン大作戦やお祭りなんかもそうですが、「日本人の人たちで、こういうことやってるんで来てくださいね」と言ってもなかなか来てくれる人は限られていると思います。来てく

れる人たちというのは、元からそういうのに興味がある人たちだと思います。本当にみんなで共生していくには、なかなかそういうところに足を運べない、一步踏み出せない人たち、それは日本人も一緒だと思うんですけども、そうした人たちにどのようにアプローチしていくかというところが大事だと思うので、こちらからやっぱり出向いていく。例えばベトナム人の方であったりイスラム圏の方であったりというところは、もう独自のコミュニティがあると思いますので、そうしたところにこちらから足を運んで、「こういうことをやってますよ」とか「一緒に何かしませんか」というような、こちらから足を向けていく、積極的に足を運んでいくということが大事なんじゃないかなということを話しました。以上です。

(拍手)

○横内課長

どうもありがとうございました。

各グループの皆様の真摯なご議論と、いろんな解決策ということでご発表いただきましてどうもありがとうございました。

それでは一旦、議長と副議長に戻っていただきます。

○大垣議長

発表いただきましてありがとうございました。多文化ということでいろいろ問題点があると思いますが、その中でいろいろなことがあったと思いますが、まだ言い残したことがありましたらどんどん言ってほしいかなと思います。挙手でよろしいですよ。いいですよ、あれば。よろしいですか。

意見はないようですので、それでは副議長、コメントをお願いします。

○矢口副議長

多文化についてお話はたくさんしていただき、「やっぱり少しずつ考えていかなければいけないな」と本当に皆さん思っていることだと思うんですけども、これは早急に形に変えていきたい問題だと思います。「こんなふうにしていったらいいんじゃない

ないか」というお話だけで止まってしまうと、どんどん多文化は進んでいっていることなので、「地域で今年はこれを形にしました」というふうに、ぜひ今回話し合ったことをしていきたいと思うんです。本当に大切なことだなということで今グループ討議に参加させてもらったんですけれども改めて感じて、できていないことやハッとすることもたくさんありましたので、私も地域に持って帰って実践、どれから行けるか考えていきたいと思います。

○大垣議長

ありがとうございます。

なかなか取り入れるのがしんどいかなと思いますけど、全部でこの西淀川が良いようにまた進めていければいいかなと思っております。

それでは、事務局から次の議題の説明をよろしくお願いします。

○横内課長

区政会議委員の改選の時期についてのお話でございます。今年も9月に、2年の区政会議委員の任期が満了しまして、10月1日から委員改選を実施させていただく予定になっております。委員の任期は最長で2期4年となっております、4年の方につきましては、今回で任期満了となります。1期2年の方につきましては、もう1期継続することができますので、引き続き各団体のご推薦やご応募によりまして、区政会議への積極的なご参加をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。地域団体の選出枠の方につきましても、新規・継続どちらの場合も各団体から次期委員のご推薦をいただきまして、引き続きご協力のほう、よろしくお願いいたします。また、一般公募につきましても広報紙などでご周知させていただきまして、8月に公募を開始させていただきたいと思っております。1期2年の方は、ぜひご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○大垣議長

それでは、ご出席いただいております区選出の市会議員の皆様から、議論について
のご意見を聞きたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

市会議員の佐々木議員さんからお願いいたします。

○佐々木議員

皆さん、こんばんは。今日は多文化共生ということで、いろいろご審議いただきました。
私もテーブルを回っていろいろお聞かせいただいたんですけど、生活の中で感
じられている実感をお話しし、またいろんな提案もしていただいて、ものすごく勉強
になりました。本当にありがとうございました。

皆さんみたいに多文化共生にも理解があって、そして前向きに捉えていただいてい
るということが広がっていけば、かなりの課題が解決、前に進んでいくんじゃないか
なと思いました。私、市会議員なので、いろんな要望をいただくんですよ。その話は、
あまり前向きな話じゃないことが多いです。これ何とかしてくれと。最近でいえば、
中国人が土地を買ってこんな問題が起こってるとか、以前であれば、やっぱりごみの
ルールがまずいみたいな話で、環境局に相談して多言語で立て看板をつくってもらっ
たところが何か所かあります。それはもう解決したことなんですけれども、ネットの
世界では、やっぱりいろんな風評被害的なこともありますし、そういうのも払拭する
必要があるなど。それをしなかったら、実際目の前の方を見たときに、偏見を持って
見てしまったら、仲良くすることも理解し合うこともできないんじゃないかなと。そ
ういう発信は大事だなと思いました。

僕は、もともと中学校の教師をしていたんですけど、クラスに外国人の子どもがい
ました。その頃はフィリピンの子と中国の子と教えたんですけども、兄弟もいて、や
っぱり最初心配するのはいじめられることなんですよ。日本人の心の中にあるのが、
欧米系はあんまりそんなことをしないんですけど、アジア系の子に対してはちょっと
下に見るようなところがあって、いじめの対象にならないようにと思っていたんです
けども、いろんな習慣の違いがあるわけです。例えば中国の子だったら、教室の掃除

なんかしたことないわけですよ。プールでみんなと着替えるなんて、人前で着替えるのなんてあり得ないみたいな話であったりとか、またフィリピンの子だったら女の子だったら、もう小さいときからピアスの穴を開けているんですよね。でも中学校でそんな校則違反じゃないですか。「あいつだけ何でいいねん」みたいな。ちゃんとそれも説明することで仲良く暮らしていったりもしたんですけれども、そんな中で、日本で生活する外国人の人が増えてきたら、その子らがちゃんと日本で暮らしていくということを考えていくと、やっぱり教育をちゃんと受けられる、簡単にいうと高校進学をちゃんとできるかどうか、もうこれに全力でやっていたんです。議員になってからも日本語教育の充実ということでいろいろ手も打ったんですけれども、西淀川はすごい先駆的にやってくれていました。出来島小学校で日本語学級をまさにボランティアでずっと来ていただいて、すごく熱心にやっていただいて、その淵源があって淀中学校で日本語教室があって、また前の淀中学校の校長先生は、何と外国人に日本語教育をする専門学校の校長先生をしてるという。そういう先駆的な取組をしていただいているのがありがたいなと。さっきの話にもありましたけど、子どもらはすぐ言葉を覚えるんですよね。年が小さければ小さいほど早く覚えて、でも逆に親はなかなかということ。

ちょっと話替わると、日本で、大阪で夜間中学があります。大阪は昔から、この多文化共生の話とかも通じて、朝鮮半島のオモニがたくさんいたので、だからそういう方が昔は多かったんですけど、今はもう本当にネパール系の方がすごく多くて、行ったら外国人ばかりなんですよ。だからその高校に行かれなかった子が行くとかいうふうな形に。ただ基本は、その義務教育を受けられなかった方がその夜間中学の対象なので、だからそういう外国人の方でも義務教育が終わってたら、そこに行くのはちょっと違うでしょうみたいな話になるんですが、義務教育が8年のところもあるので、だからそういう方が来られたりもするんですけれども、そこで言うのは、「それは夜間中学の仕事なの？」みたいな話になりまして、でも現状はそうなんだからニーズがあ

るから、だからやっぱりそれには対応していかないといけないのではないかと今いろんな取組も進めてるところでもあります。

その一つ一つを考える中で、日本で、さっきの指導している中でも、その子らが育って行って、そして地域を支える人材になっていく、育てていく。日本は少子化なので、もうそんな「出て行け」なんて無理な話ですから。でも「出て行け」と思っている人もいっぱいいるんですよ、そういう方からいっぱい僕苦情をいただくので。日本の法律として、「そんなのはできないです」と言っても、「いやいや、外国人に何で生活保護やらなあかんねん」みたいな話になりますけど、日本人であっても外国人であっても扱いは同じ。日本人が外国に行ったときでも国際的な条約でそれは一緒なんですというところから説明しないといけないんですけど、そういういろんな感覚もちゃんとバランスを取っていきながら、地域でその感覚を広げて行って、そして具体的にじゃあどうしたらいいかなというのを進めていけたらなと思います。

今日本当に関心ある声をお伺いしましてものすごく勉強になりました。自分自身も、もっと地域の知恵に学んでいかなあかなと思いました。いろんなご要望があったら、また教えてください。市会議員、府議会議員がおりますので、しっかり政策として反映できるように前に進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました。

そうしたら続きまして、山田議員。帰られましたか。

○横内課長

コメントを預かってますので、清水議員で。

○大垣議長

そうですね。どうぞ。

○清水議員

こんばんは。市会議員の清水と申します。私はこのグループ討議に初めて参加させていただいたんですけども、本当にすごく勉強になったと思うのが、やっぱり皆さん身近で感じていることを皆さんで話してるので、やっぱりどうしても今出てるテレビとかもそうですけども、一部分を大きく取ってしまったりだとか、大阪全体の話をしたりだとか、やっぱり日本全体の話、要は身近な話というのは正直私も最近あまり議論しなかったなと思って、今日はすごく勉強になりました。

これから多様性とか多文化というのは、日本でも協力していかないといけないというタイミングで、万博がちょうど大阪から、日本をそういうふうに変えていくという、本当に大切な時期だと思ってます。

今、日本でも、世界中でもですけどグローバル社会というのをめざしてまして、それは何かというと、身体障がいのある方、それこそ外国で仕事に来られている方、様々な方が住みやすいまちをつくっていかねばいけないと。その中で、私、海外旅行が好きで、様々な国の特にアジア圏内の旅行に行くのがものすごく好きで、文化を共有する時とか学ぶ時、それこそ祭りに参加して、綱引きじゃないんですけど、先ほどおっしゃった祭りに参加したりとかしたら本当に楽しくて、文化交流というのはすばらしいなと思います。日本が、私は世界で一番住みやすいまちだと思っているので、この日本だからこそ、そういう文化を受け入れながら、そのグローバル社会というのを一番実現しやすい国だと私は思っていて、その中でも、今万博が行われているこの大阪で、西淀川区だったらその先駆者となれるようなまちになるんじゃないかなと感じてます。今も様々な町会のイベントと一緒にしていただいたりだとか、地域の方のイベントに参加したりだとか、様々な問題も起きてるのは確かなんですけども、それも外国人だったら知らない。「日本のマナーはこれが正解」なんていうのはあまり知らない方がやっぱり多いのかなと。大野川緑陰道路の話で、私もよく歩いているところを自転車で来る外国人の方がいて、何で青のほういかんのやろうと思っていて、

少し腹立つこともあったんですけども、よくよく考えてみたら、青のところを自転車で走るなんて外国の方が知ってるわけないなと先ほどの話を聞いて思いまして、そういう身近なルールでも知らないことというのはたくさんあるかなとすごく感じたので、意見交換の場、様々な文化交流というのを進めながら、共に住みやすいまちを実現できたらなと思いました。

副議長からも最後にあった、こういうふうに話をするだけじゃなくて、これをいかに行動に移して実現できるかというのが私もすごく肝だと思ってますし、市会議員としての仕事だとも思いますので、これからもたくさん意見交換しながら、しっかりと西淀川区から様々な文化交流を実現して、より住みやすいまちをつくっていければなと思いました。本当に本日はすごく勉強になりました。ありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございます。清水議員に尋ねますけども、若い方がこちらへ働きに来て、多文化の人が来ているんですけども、そのような方々の規則的なものはどのようなものでしょう。若い議員から見て、どうなんでしょうか。

○清水議員

若い人が増えてきてて、問題と言うとあれだと思うんですけども、若い人はグループができれば、みんなそれに入って仲良くなるじゃないですけど、そのグループが広がってきたら、例えばみんなで信号無視をしてしまったり。1人でいたら多分そんなことしないと思うんですよ。1人で家の前に座って、たばこを吸ったり空き缶を捨てたりはしないと思うので。若い方が集まったら、みんなでお酒飲んでといったマナー違反は少しあるかなと思うので。そうした働きに来てる人に日本のマナーや「こういうルールがあるよ」というのを決めつけて教えるんじゃないくて、その若い世代の方、自分らの国のことでしか考えてなかったのが、大人になってすぐにこっちに来ているというのもあるので、なかなかすぐになじむというのは海外の人は難しいと思うので、

そうしたところはまちとしても支えていくじゃないけれども、しっかりと協力して、それこそ地域のさっき言った綱引きじゃないですけど、協力したら、一緒に何かしたときに、そういう若い方でも「一緒に頑張ろう」とか、アイデンティティとおっしゃってましたけど、「西淀川区民として」という誇りを持っていただけたらと思うので、そうした意見交換や交流の機会を若い人たちにも積極的に設けていく、区政会議委員にも外国人の方を入れるとか、そうしたところで身近に協力していく機会を増やしていかなきゃ駄目だなと感じました。ありがとうございます。

○大垣議長

ありがとうございます。

続きまして、副区長、何かコメントをお願いします。

○横内課長

すみません。山田議員は帰られたんですけども、コメントをいただいております。

「今回、国勢調査で、おそらく外国の方が非常に増えるだろうというのが予想されます。今回このように地域の方が外国の方のことを真剣に考えてお話ししてるというのを、例えば傍聴で来ていただいて見ていただくのもいいんじゃないかなということを感じました」というコメントをいただいておりますので、ご紹介させていただきました。ありがとうございます。

○楯川副区長

本日、どうも長い時間ありがとうございました。お疲れのところありがとうございました。グループ討議で多文化共生についてということで、課題ですとか解決策を考えてもらいまして、私もいろいろ回っている中で、生活者の皆さんの視点というのは面白かったなと思って聞いてました。

先日、多文化共生の推進を担当してます市民局という局がございまして、そちらの方が地活協の会長会に来られまして、毎回、外国人人口の現状ですとか、外国人住民の地域活動やイベントへ参加を促すための多言語でのチラシの作成方法を紹介されて

まして、住民数の傾向としましては、コロナ以降増加していますということで、10年前の1.6倍になってます。さっき子どもを核としてという、子は鎧という話がありましたけども、じゃあ子どもの数はどれくらい増えてるのかなと思って調べましたら、全体では1.6倍なんですけど児童生徒数は1.9倍になっているということで、中には新しく来られて日本語が分からない、あるいは日常会話はできるけども日本語学習言語としては日本語が拙いことというので、児童生徒の数が増えるに従って課題も増えてますよという話もございます。

そして、多文化共生推進本部というのが大阪市ではそうした施策を進めるためにつくられているんですけども、今週火曜日に会議がございまして、そこで衝撃を受ける数字を目にしまして、それは外国人住民にアンケート調査を行ってるんですけども、「外国人のための相談窓口やホームページを知っている」と回答した外国人住民の割合が、たったの8.2%だったんです。いろいろ多言語で行政サービスやイベントの情報を発信してますけども、数字的には大阪市で生活情報ですとかが母語で、それぞれの国の母国語で提供されている外国人住民の割合というのは8割を超えてるんですけども、届けてはいるんですけどもしっかり届いていないという実態があるのかなと感じてます。

前々回の11月の区政会議で、私の経験から、外国人住民に届けるためには、コミュニティに伝えるということですか、外国人がよく行くお店にチラシを貼ったりとかというのが有効と思うよというお話をさせていただきましたけども、先ほど申し上げた多文化共生推進本部会議で、ある区の事例として、チラシを多言語化して駅の掲示板に掲出しましたと。すると多くの外国人のイベントへの参加があったというものがありませんでした。残念ながら当区には大阪メトロの駅がございませんけども、御幣島駅には貼らせてもらってます。来月6日に剣道体験会というのを西淀川スポーツセンターで開催します。体験会ですので、外国にルーツのある方も歓迎というか、どちらかというとか来てほしいということで、駅構内に外国語で表記した募集のポスターが貼って

ました。ご覧になった方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれませんが、やはり駅であれば皆さん急いでるのでなかなか立ち止まってしげしげとポスターを見るということは少ないかもしれないですけども、日本語のポスターを眺める中で、アルファベットや自分の母国語には自然とフォーカス、目がそっちへ行きますので、そうした読める言語で書かれていればいいのかなと思ってます。

先ほどの他区の事例と、西淀川区の駅構内のポスター掲出というのを併せて考えますと、できれば御幣島駅に、例えば常設の掲示板というのがあって、そこに外国人住民向けのコーナーができて、そこでごみやマナーなど生活に関する情報をお知らせしたり、共に楽しめるようなイベントをお知らせしたりできればいいのかなと思っています。

今日は綱引き大会をやってはどうかとか、ルールブックをつくってはどうかとかいろんなアイデアをいただきましたので、先ほどもご意見ありましたけども、何とか一つでも形にしていけるように前に進めていけたらと思っています。どうも長時間ありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました。

事務局から、他に案内はありますでしょうか。

○横内課長

今回の区政会議でございますが、9月25日木曜日、18時半から予定しております。

委員の皆様から本日いただいたご意見を事務局で整理させていただいた上で、「高い防災力を備え、さまざまな文化でにぎわう西淀川」の実現に向けた課題の設定、具体的な施策、取組についてご議論いただきます。ありがとうございます。

事務局からの報告は以上でございます。

○大垣議長

それでは最後に、副議長からまとめの感想をどうぞ。

○矢口副議長

ありがとうございます。この区政会議で行われるグループ討論ですけれども、いろいろな活動をしている方とお話しでき、いろんなアイデアを持った方とお話ができ、非常に勉強になり、そして力になります。次回もぜひご参加いただき、西淀川を盛り上げていきましょう。本日はありがとうございました。

(拍手)

○大垣議長

ありがとうございました。

皆様、本当にどうもご苦労さまでございました。本当にまた皆様の声を聞きたいと思いますので、すみませんが、またよろしくお願いします。

本当に長時間ありがとうございました。

(拍手)